

第4学年国語科学習指導案

日 時 平成27年10月 6日 (火) 6校時
児 童 男子 7名 女子10名 計17名
指導者 小田島 みよ子

- 1 単元名 「心の木」で感想を語り合おう
教材名 「プラタナスの木」(光村図書)
補助教材 「ピトゥスの動物園」(サバスティア=スリバス作) 他

【付きたい力】

- 文章を読んだ感想を発表し合い、一人一人の感じ方の違いに気付く力(読むこと オ)
- ◎ 登場人物の言動や気持ちの変化を、叙述を基に想像して読んだり、自分の体験と結び付けて読んだりする力(読むこと ウ)

【単元を貫く言語活動】

「心の木」で感想を語り合おう

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、『心の木』で感想を語り合おうを位置付けた。この言語活動は、「読むこと」の言語活動例「ウ 物語や詩を読み、感想を述べ合う」を具体化したものである。

感想をもつためには、登場人物の気持ちを叙述を基に読み、自分の体験と比べたり、もし自分だったらと想像したりしながら読み進めることが大事である。また、考えたり感じたりしたことを相手に正しく理解してもらうために、考えの基になった叙述や結び付けた自分の体験も伝えることが必要である。「心の木」に自分の考えやその基となった事柄をメモしながら読み進めていく。このことは、更に自分の考えを深めたり広げたりすることにもつながる。また、自分の考えたことや感じたことを相手に正しく伝えるためには、適切な言葉を選んで表現することが必要になってくる。自分の考えによりぴったりの言葉なども「心の木」にメモしておくことで、話し合いがより深まる。従って、『心の木』で感想を語り合おうは、本単元でねらう「登場人物の気持ちの変化や情景などを想像して読むこと、読んで考えたことを発表し合い、感じ方の違いに気付くこと」を実現するのにふさわしい言語活動であると考えられる。

3 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、文学的文章として「白いぼうし」や「一つの花」を読む経験をしてきている。「白いぼうし」では、叙述に即して読み進め、松井さんの言動からその人柄を捉える力を付けてきた。そして、捉えた人柄を踏まえて、続き話を作る活動を行った。「一つの花」では、叙述を基に想像して読むことや目的や必要に応じて引用する力を付けることをねらいとして、「一つの花」に込められたお父さんの願いを想像して読み、心に残ったところを引用し、なぜ心に残ったのか理由を加えて感想をリーフレットにまとめた。児童が、並行読書で読み進めてきた平和を願って書かれた本についても、心に残ったところとその理由を感想にまとめ、友達

や家族に紹介する活動を行った。

これらの学習を通して、児童は、登場人物の気持ちの変化を読み取り、自分の感想を持つことができるようになってきた。しかし、児童の感想の多くは、物語の展開や登場人物の言動に限ってのものが多く、自分の体験と結び付けて行動や気持ちの変化を捉えたり、もし自分ならどうするだろうかと自分に置き換えて登場人物の気持ちを深く考える力は十分に身につけていない。また、グループでの交流において、伝える相手を意識して、自分の考えの根拠を説明したり、考えの基となった叙述や自分の体験を交えて感想を述べたりする力は不十分である。

以上のことから、登場人物の言動や気持ちの変化を叙述をもとに想像して読む力と共に、自分の体験と結びつけて読む力、文章を読んで考えたことや感じたことを発表し合い、一人一人の感じ方の違いに気付く力を身につけさせたい。

(2) 単元構成及び教材について

① 教材について

本作品は、登場人物が等身大であることから、児童は作品に感情移入しやすく、感想をもちやすいと考えられる。1場面は、小さな公園でサッカーを楽しむ仲間たちというどこにでもありそうな親しみのある設定である。2場面は、おじいさんが登場し、子ども達は次第に親しくなるが、おじいさんの不思議な話をなんとなく聞いている程度で、それほど関心を示してはいないことが読み取れる。3場面で、マーちゃんは、森の一本一本の木の下にそれと同じくらい大きな根が広がっている様子をはっきりと思い描くことができる。そして、木々やその根が、森や祖父母の家さえも守ってきたことを考えるようになった。この場面は、自然の力強さを感じることができる場面であり、マーちゃんの気持ちが変わった場面でもある。4場面は、プラタナスの木が切り株だけを残して切られてしまう。子ども達は、おじいさんの不思議な話を思い出し、「根っこが困っているだろう。」と心配する。5場面で、マーちゃん達は、切り株の上に乗る両手を広げ、幹や枝の代わりになろうとする。このような行動に対して、児童はいろいろな考え方や感想をもつことができると思われる。

並行読書材として、登場人物の心の触れ合いが描かれていて、なおかつ、児童が登場人物に同化しやすい作品を設定する。

- | | | |
|---------------|--------------|---------|
| ・ピトゥスの動物園 | (サバスティア＝スリパス | あすなる書房) |
| ・百枚のドレス | (エレナ＝エスティス | 岩波書店) |
| ・雨降る本屋 | (日向理恵子 | 童心社) |
| ・こちら事件クラブ | (小暮 正夫 | 偕成社) |
| ・放送部ただいま戦国時代 | (角田 光男 | 偕成社) |
| ・雨やどりはすべり台の下で | (岡田 淳 | 偕成社) |
| ・びんの中の子どもたち | (大海 赫 | 偕成社) 他 |

② 単元構成について

<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連図書紹介 ・感想を交流するよさの共有。感想を話す観点の確認 ・課題を設定する 	<p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材文で、「心に残ったことから、登場人物の気持ちを叙述を基に想像して読んだり、自分の体験に引き寄せて考えたりして読むこと」を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と感想を語り合う。
<p>並行読書</p>	<p>発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材文での読みを生かし、自分が選んだ本について感想を話す準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ本で感想を語り合う。

(3) 指導にあたって

① 主体的な学習を展開するために

本単元では、『心の木』で感想を語り合おう」を単元のゴールとして設定する。

第一次では、感想を交流するよさを共有し合い、話し合う観点を確認する。話し合いの観点に沿って考えたことや感じたことを「心の木」にメモしながら読み進めていくことを確認する。教師が作成した「一つの花」の「心の木」を紹介し、児童と「心の木」の構成要素を確認し、進んで取り組めるようにする。主教材「プラタナスの木」を読み、面白いと感じたところ、初めて知ったところ、好きな表現等の初発の感想を「心の木」に書く。並行読書用の図書は、朝読書の時間を利用してブックトークを行う。図書は、朝読書の時間や家庭で読み進め、その中から感想を交流したい図書を一冊選ぶようにさせる。

第二次では、「プラタナスの木」をじっくり読み、感想を語り合う活動に向けて、考えたことや感じたことを「心の木」に書き込んでいく。考えの基となった叙述や自分の経験も書き加えていくようにする。おじいさんの話や祖父母の森での体験を通して、森の見方が変わったことやプラタナスの木に対する思いが変化したことをしっかりと捉えさせ、5場面の切り株の上で両手を広げる行為に至る気持ちを豊かに想像させたい。

第三次では、「プラタナスの木」を読んで書きためてきた感想メモ「心の木」を手にして、語り合う。並行読書で選んだ本についても考えたことや感じたことを「心の木」に書きためておく。同じ本を選んだ人同士で感想を交流し合う。

② 確かな読みを保障するために

教材文は、物語の全体を俯瞰できるように、全文提示する。物語を登場人物の気持ちに着目して読むようにし、着目した気持ちには付箋を貼るようにする。登場人物の気持ちがどのように変わったのか、変わった要因は何かを考えさせる。要因を考える際は、「心の木」に考えの根拠となった叙述や自分の体験も書くようにする。

③ 交流を意欲的に進めるために

交流のグループは、3～5人の少人数で行う。感想を語り合う際には、書きためてきた感想メモ「心の木」を見せ合いながら交流させる。交流のポイントを確認し、叙述や経験を根拠に話し合い、自分の考えとの共通点や相違点を考えながら交流し、お互いの考えや

感じ方を認め合うようにさせる。

4 単元の目標

- 「プラタナスの木」と「自分が選んだ本」につて、登場人物の気持ちの変化や心に強く残ったところに着目し、感想を述べようとしている。 【関心・意欲・態度】
- ◎ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化や情景などについて、叙述を基に想像して読んだことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。 【読む】
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることを理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語の好きなところや心に強く残ったところについて、考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化や情景について、叙述を基に想像して読んでいる。(ウ) ・ 物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているか、自分の経験とどう関連しているかを明らかにしながら話し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えや気持ちを表すのにぴったりの言葉を探して表現したり、友達の表現から、その考えや気持ちを考えたりすることができる。

6 単元の指導と評価計画（全8時間）

次	時	学 習 活 動	評 価
第一 次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・ 感想を交流するよさを話し合い、「物語を読んで感想を語り合おう」を設定する。 ・ 交流を深めるために、考えたことや感じたことを「心の木」に書きためていくことを確認する。 ○ 学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「プラタナスの木」と自分が選んだ本についての感想を「心の木」に書きためながら読み、感想を語り合う計画を立てる。 	関 教師が提示したものを基に、進んで学習計画を立てている。 【観察・ノート】
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 並行読書の作品を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 並行読書で選んだ本について、考えたところや感じたところに付箋を貼り、「心の木」にメモしながら読み進めることを確認する。 ○ 「プラタナスの木」を読み、初発の感想をもつ。 	関 教師が紹介した本に関心をもち、進んで読もうとしている。 【観察・心の木】
第二 次	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「プラタナスの木」のあらすじをまとめる。 ○ 感想を語り合う活動に向けて、「プラタナスの木」を読んで考えたところや感じたところに付箋を貼り、「心の木」に自分の考えや感じたことを書く。 	読 登場人物の気持ちの変化を叙述を基に読んだり、自分の体験と結びつけて考えたりする。 【符箋・心の木】

4 本時	○ 感想を語り合う活動に向けて、登場人物の気持ちの変化を想像して読む。 ・ マーちゃんのプラタナスの木に対する気持ちが変わった理由を考える。	読 登場人物の気持ちの変化を想像して読む。 [発言・心の木]
	○ プラタナスの切りかぶに乗るマーちゃんの気持ちを考える。 ○ 「プラタナスの木」を読んで、心に強く残ったところとその理由を考える。	読 登場人物の気持ちの変化を想像して読む。 [発言・心の木] 言 自分の考えや気持ちを表すのにぴったりの言葉を探している。[心の木・発言]
第三 次	○ 「プラタナスの木」について「心の木」をもとに感想を語り合う。	読 共通点や相違点を考えながら話し合い、互いの考えの違いに気付いている。 [発言]
	○ 「自分が選んだ本」の心に残ったところや登場人物の気持ちが変わったところについて、考えたことや感じたことを「心の木」に書きためる。	読 登場人物の気持ちの変化を叙述を基に読んだり、自分の体験と結びつけて考えたりする。 [符箋・心の木]
	○ 「自分が選んだ本」について「心の木」をもとに感想を語り合う。 ○ 学習を振り返る。	読 共通点や相違点を考えながら話し合い、互いの考えの違いに気付いている。 [発言]

7 本時の指導

(1) 目標

プラタナスの木に対するマーちゃんの気持ちが変わった理由を考えよう

(2) 展開

段階	学習内容と活動 ◇発問 ・予想される児童の反応	○支援 ・留意事項 ☆評価
つかむ 5分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">プラタナスの木に対するマーちゃんの気持ちを考えよう。</div>	・ 「プラタナスの木」を読んで考えたことや感じたことを「心の木」に書きためてきた。 ・ 感想を語り合う活動に向けて、想像したマーちゃんの気持ちを「心の木」に書きためていくことを確かめる。
ふかめる 30分	3 プラタナスの木に対するマーちゃんの気持ちについて考える。 ◇ プラタナスの木に対するマーちゃんの最初の気持ちと最後の気持ちを考えて比べてみましょう。	○ 最初の気持ちは2場面から、最後の気持ちは5場面から考えさせる。

	<p>最初の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラタナスのことをそれほど気にしていない。少し気になる。 ・プラタナスはよい日陰になり、助かる。 ・プラタナスのことを「ふうん。」と聞いていて、少し関心を持っている。 <p>最後の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きだったサッカーにさえ白熱しなくなるほど、プラタナスの木のことを考えている。 ・地下に広がっている根のことを想像して、根が困っているだろうと心配している。 ・ぼくたちが、みきや枝の代わりになろうと考えるほど、プラタナスが好きになった。 <p>◇ 最初と最後のマーちゃんの気持ちを比べてみよう。プラタナスに対する気持ちは、同じですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違っている。最初より、深く考えるようになった。 <p>◇ マーちゃんのプラタナスへの気持ちが変化した理由を考えて交流しよう。</p> <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖父母の家で自然の力を体験したから。 ・大きな台風襲われても、木が倒れず、森が壊れなかったことから、木の力強さを知ったから。 ・大きな台風襲われたにもかかわらず、森は静かで、いつもと変わらなかったことから、根が守ってくれていることが分かった。 	<p>☆ 登場人物の気持ちの変化や情景について、叙述を基に想像して読む。 [発言]</p> <p>・ 気持ちが変わった理由を祖父母の家での体験と関わらせて想像させる。</p> <p>○ 3～5人のグループで交流させる。</p> <p>☆ 気持ちが変化した理由を、どの叙述に基づいているかを明らかにしながら話し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 [発言]</p>
まとめ	<p>4 プラタナスの木に対するマーちゃんの気持ちの変化についてまとめよう。</p> <p>◇ それぞれのグループで話し合ったことを発表しよう。</p>	

10 分	5	学習を振り返る。 ・今日の学習で、分かったことは何ですか。	・今日の学習の成果を振り返る。
	6	次時は、切りかぶの上に立つマーちゃんの気持ちを 考えて、「心の木」にまとめる。	

(3) 板書計画

学習のゴール
「心の木」で感想を語り合おう
プラタナスの木
椎名 誠

プラタナスの木に対するマーちゃんの気持ち
が変化し理由を
考えよう。

マーちゃんの気持ち
初めの気持ち 少し関心をもっている。
よい日陰になってくれるので、ありがたい。

変化した理由
おじいさんの話の通りであることを、体験
を通して感じたから。
根が広がっていることを想像できたから。
台風でも、倒れない木を見て、木の強さ
を知ったから。
木が森を守ってくれているのではないかと
考えたから。



最後の気持ち
切られたプラタナスのことが心配になる。
みきや枝や葉っぱになろうと思う。
春には、芽を出すことを願う。
おじいさんにまた会えることを願う。

交流する時は
① 考えの基は、何か。(言葉・行動・情景など)
② 考えや感じ方が、似ているところ違っているところはあるか。